

令和元年不動産鑑定士試験論文式試験

会計学(問題) { 満点 100 点
時間 2 時間(10 時～12 時) }

[注意事項]

- 1 問題用紙及び解答用紙は、係官の指示があるまで開けてはいけません。
- 2 これは、問題用紙です。解答は、解答用紙に書いてください。
- 3 問題用紙は表紙を含めて3ページ、解答用紙は表紙を含めて3ページです。
- 4 解答は、解答用紙の所定の欄に、黒若しくは青のボールペン又は万年筆で丁寧に書いてください。鉛筆等で書くと無効となります。
- 5 答案の下書きは、問題用紙の余白部分を利用してください。
- 6 問題用紙は、本科目終了後、持ち帰っても構いません。

* この問題は、平成30年9月1日時点で施行されている法令及び諸規程により出題しています。

問題1 (50点)

資産の評価について、次の各問に答えなさい。

- (1) 次の文章は、資産の評価方法について説明したものである。次の空欄(ア)から(キ)までに入る適切な語句を答えなさい。

資産の評価方法には、大きく4つのものがある。第1に、企業がその資産を購入によって取得した場合、その購入代金に(ア)を加算して算定される(イ)をもって行う方法である。購入したのが過去の時点であることを強調する意味で(ウ)と呼ばれることもある。第2に、現在保有している資産と同等のものを再び購入して、取得する際にかかる価格をもって算定される(エ)がある。第3の方法は、現在保有している資産を売却した場合、その売却価格から(ア)を控除した額をもって算定される(オ)である。第4に、その資産がもたらす将来の(カ)を見積もり、それを利子率で割り引いて(キ)を算定する方法である。

- (2) わが国の会計基準では、保有目的の違いにより、資産を大きく2つの種類に分類し、それぞれ取得原価及び時価で評価することになっている。この資産の2つの区分を示し、なぜ取得原価が適用されるのか、あるいは時価が適用されるのかについて述べなさい。

問題2 (50点)

固定資産の減損に関する会計処理について、次の各問に答えなさい。

- (1) 次の文章は、「固定資産の減損に係る会計基準」からの抜粋である。文中の空欄(ア)から(オ)までに入る適切な語句を答えなさい。

2. 減損損失の認識

- (1) 減損の兆候がある資産又は資産グループについての減損損失を認識するかどうかの判定は、資産又は資産グループから得られる(ア)の総額と(イ)を比較することによって行い、資産又は資産グループから得られる(ア)の総額が(イ)を下回る場合には、減損損失を認識する。

(中略)

6. 資産のグルーピング

- (1) 資産のグルーピングの方法

減損損失を認識するかどうかの判定と減損損失の測定において行われる資産のグルーピングは、他の資産又は資産グループの(ウ)から概ね(エ)した(ウ)を生み出す(オ)の単位で行う。

- (2) 資産グループについて認識された減損損失の配分

資産グループについて認識された減損損失は、(イ)に基づく比例配分等の合理的な方法により、当該資産グループの各構成資産に配分する。

- (2) 「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」によれば、「固定資産の減損とは、資産の収益性の低下により 状態」(三、3)であるとされる。これに関連して次の各問に答えなさい。

① に入る適切な文言を答えなさい。

② 下線部について、資産の収益性が低下した状態とは、どのようなものか。その意味を、投資という観点から説明しなさい。

- (3) 固定資産の減損処理は、時価評価ではないとされる。その理由を答えなさい。

- (4) 投資期間全体を通じた投資額の回収可能性という観点から、「固定資産の減損に係る会計基準」の問題点を説明しなさい。

(以下余白)

